

Ⅲ 経験を大切にした指導

小学部主事 竹内伸二郎

1 小学部の取り組み

小学部では、教育の重点として「遊びや学習に楽しく取り組む」ことを掲げている。楽しく取り組むということは、児童にとって「豊かな心、たくましい行動」そのものであるとともに基礎でもある。児童が楽しく取り組むには、遊びや学習のしかたがわかって、自分から進んでできることが大切である。それには、児童のもっている経験を十分に生かすことによって遊びや学習のしかたをわからせ、自分でできる自信や喜びをもたせなければならないと考え、「経験を大切にした指導」という副題を設定した。

経験を大切にする方法として、経験を繰り返すことを試みた。単純な反復練習でなく、少しずつ角度を変え、状況を変えて繰り返されることで学習内容がわかり出し、学習に見通しが立てられるようになるので学習に取り組む姿勢が「自分からしよう」とする主体的なものになってくる。

学習形態としては、合同学習を試みた。(P8 図参照) 小さく消極的になりがちなクラスとは違った大規模で豊かな経験 ― 年齢の異なる友達の中で、多くの先生達の中で刺激を受け「豊かな心、たくましい行動」が育っていくものと考えた。

本年度は、上記の学習のあり方が定着した段階で、主題にせまるためには、さらに個の追求を重視しなければならない必要から個の指導に力点を置いた。

2 合同学習と個別学習

前年度までで、合同学習という学習形態が一応の定着をみせ、教師間のチームワークもスムーズに流れるようになった。前項でも述べた通り、合同学習は、小さなクラス学習では育てることが困難な問題、即ち、集団で大きな物を作ったり遊んだりする喜び、成就感といったダイナミックな経験をさせることができる。また、多くの友達の中でもまれ、社会性を育てるのにも有効である。反面、個に対する綿密な指導は、大きな集団では無理が生ずる。従って、合同学習の場面では、喜び、意欲面を重点とし、クラス学習では、個別指導に重点を置いて取り組むことにした。これにより、個別指導の充実が合同学習を盛り上げるものとなり、合同学習の喜び、意欲といったものが、個別学習をいっそう意欲的にしていく有機的なつながり、効果をねらっている。個と集団とのかかわりのようす P8、P26 ～ 28 等の実践事例を参考にしてほしい。